

1. 社会・治安情勢

リオデジャネイロ州全域で拳銃，機関銃，手榴弾等を使用した殺人，強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。特に，近年，リオデジャネイロ市及び郊外のファベラ（貧民街）を中心に，麻薬密売組織間の銃器を使用した抗争が頻発し，治安に重大な影響を与えてきた。これを受け，軍警察は，2008年に最初の軍警察治安維持部隊（UPP）を設置し，以降，大規模な制圧作戦を継続している（2014年7月現在，リオ市内ファベラ計37カ所にUPPを設置）。

UPPをはじめとした治安当局による麻薬密売組織対策活動において度々銃撃戦が発生しているほか，治安当局の取締りに反発するファベラ住民と軍警察との間の抗争も活発化しており，4月には観光客が多く訪れるコパカバーナ地域付近の道路が一時封鎖される事件も発生している。

2014 FIFA ワールドカップ開催に伴い，5月以降，開催に反対する抗議デモの動きが再び活発化し，デモを通じてけが人及び逮捕者が出ている。また，ワールドカップ開催時期を捉え，各職種におけるストライキも多発しており，バス運転手や空港職員のストライキにより，交通機関が一時麻痺するなどの影響も出ている。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）第1四半期総括

州政府は凶悪犯罪対策に注力しており，殺人，強盗の発生数はUPPが設置された2008年以降2012年まで減少傾向にあった。しかしながら，2013年初頭から再び増加に転じ，2014年に入ってからはその傾向が特に顕著になっている。また，窃盗総数及び犯罪総数にいたっては，過去10年間軒並み増加傾向にあり，2013年にはいずれも過去最多を記録している。

一般治安悪化の理由については，相次いで新設されたUPPに多数の人員を配置したため，既存の警察署の人員不足が深刻化したことや，リオ20，コンフェデ杯，ローマ法王来訪，そして今回のワールドカップと大規模行事が立て続けに開催され，これらに対する警備及び大規模デモ対策に多くの人員を割かれ，人員不足が一層顕著になったことなどが指摘されている。

邦人が多数居住する南部地区でも，ほぼ全域にわたって治安が悪化しており，特にひったくりや路上強盗等の街頭犯罪の増加が顕著である。街頭犯罪の増加について，当地治安当局では，UPPの取締りにより麻薬売買に従事できなくなった犯罪グループがより安易な犯罪へと流れている旨分析している。

リオ州公安研究所による，本年4月の犯罪統計は以下のとおり。（括弧内は前年同月比の増減数）

	リオ州	リオ市
殺人	449 (+38)	97 (-21)
強盗	13737 (+3792)	6816 (+1919)
(うち路上強盗)	6668 (+2316)	3308 (+1056)
窃盗	14406 (-431)	8099 (-71)
強姦	463 (-45)	137 (-14)

(2) 邦人被害事案

- ア 4月2日(水)午前6時頃、コパカバーナ地区アトランチカ大通りでサイクリングをしていた邦人が強盗に襲われて負傷。サイクリングロードにたむろしていた少年集団のうち2人が、被害者の自転車が通過した直後に背後から駆け寄って自転車を突き倒し、路面に叩きつけられて動けない被害者からスマートフォンと自転車を強取した。
- イ 4月12日(土)午後4時頃、リオ州アングラドスヘイス市ジョゼエリアス・ラバ大通りにおいて、被害者(3歳)と母親が大通り向かい側に渡るため舗道上で車の流れが止まるのを待っていたところ、被害者が母親の手を離れて路上に飛び出し、バスにひかれて死亡した。
- ウ 4月23日(水)午前9時頃、邦人がリオ市北部ペーニャ地区の食料品店で買い物を終え、自家用車に乗ろうとしたところ、後方からけん銃を突きつけられ、現金、時計、ネックレス及び車両の鍵を強取された。同邦人に怪我はなかった。
- エ 4月27日(日)午後7時頃、邦人旅行者3人がイパネマ地区ライニャ・エリザベス通りのメルクーレ・イパネマホテル付近を歩いていたところ、少年3人に囲まれ、包丁様の刃物を首に突きつけるなどして脅された。少年らは被害者のズボンのポケットおよびカバンの中からiPhone 2台を強取した。被害者はすぐに携帯電話会社に連絡し、通信の遮断措置を依頼した。3人に怪我はなかった。
- オ 5月24日、午前0時頃、邦人旅行者が、リオ市内から長距離バスを利用し、その際、自分の横の席にソニー製の一眼レフカメラを置き、就寝した。午前9時頃目が覚めると、横に置いたはずのカメラがなくなっていることに気づいた。
- カ 6月15日(日)、午後7時頃、地下鉄マラカナン駅のスロープにおいて、邦人が立ち止まってスタジアムの写真を撮っていたところ、背負っていたカバンを開けられ、中に入っていた財布、クレジットカード等をすり盗られた。
- キ 6月15(日)午後6時頃、コパカバーナ地区のファンフェスタ会場において、邦人が、カバンの中に入っていたスマートフォン一台をすり盗ら

れた。

- ク 6月15日(日)午後6時30分頃、マラカナンスタジアム入り口付近において、アルゼンチン・ボスニア戦を訪れた邦人が、人混みの中、何者かにデジタルカメラ一台(ソニー製)をすり盗られた。
- ケ 6月15日(日)午後10時頃、マラカナンスタジアム付近において、アルゼンチン・ボスニア戦を観戦し終えた邦人が、ベルトに繋いであったスマートフォン一台をすり盗られた。
- コ 6月17日(火)午後7時頃、コパカバーナ地区の地下鉄シケイラ・カンポス駅構内において、邦人が、ズボンポケットに入れていた iPhone 一台をすり盗られた。
- サ 6月17日(火)午後7時頃、コパカバーナ地区のファンフェスタ会場において、邦人が、ウェストポーチ内に入っていた、スマートフォン一台、腕時計をすり盗られた。
- シ 6月18日(水)午後5時頃、マラカナンスタジアム付近において、スペイン・チリ戦を訪れた邦人が、上着のポケットに入れていたスマートフォン一台をすり盗られた。
- ス 6月21日(土)午後11時分頃、コパカバーナ地区アトランティカ通りの飲食店で、邦人が、航空券、W杯観戦チケット、クレジットカード、サングラス等が入ったカバンを盗まれた。
- セ 6月22日(日)午後5時頃、邦人が、コスメ・ベリヨ地区から南地区方面行きのバスに乗り込んでいたところ、気がつかない間にバックのチャックを開けられ、身分証、カード等が入った財布をすり盗られた。
- ソ 6月22日(日)午後8時頃、セントロ地区カリオカ通りにおいて、邦人が、少年2名にナイフを使って脅され、所持していたカバンの中から、現金、スマートフォン等を強取された。
- タ 6月23日(月)、午後7時頃、ラパ地区メンデサ通りのレストランにおいて、邦人が妻と食事している間に、ノートパソコンと iPad の入ったカバンを盗まれた。
- チ 6月23日(月)午前1時頃、コパカバーナ地区のアトランティカ通りの飲食店で、邦人がトイレで席を立っている間に、座席に置いてあった、カメラ、レンズ等が在中のカバンを盗まれた。
- ツ 6月28日(土)午後7時30分頃、マラカナンスタジアムで観戦を終えた邦人が、セントロ方面に向かう地下鉄の中で、カバンの中に入っていたスマートフォン一台をすり盗られた。
- テ 6月30日(月)から7月3日(木)にかけて、邦人がクレジットカードのスキミング被害に遭い、コパカバーナ地区のATMから計3回にわたって現金2,000US\$ (計6,000US\$)を引き落とされた。

3 一般事件等

(1) パバオパバオジーニョにおける抗争事件の発生

4月21日の深夜から22日にかけて、コパカバーナ地区のパバオパバオジーニョにおいて警察治安維持部隊(UPP)と麻薬密売組織との間で銃撃戦となり、地元テレビ局(グローボチャンネル)のダンサー1人が死亡した。また、同事件をきっかけにスラム街住人による抗議活動が行われ、住人らが車両やゴミに放火する等して同地区は一時騒然とした。また、この影響で同地区に通じるコパカバーナ側及びイパネマ地区の主要道路等が5時間以上にわたり通行止めとなった。

(2) コンプレクソ・ド・アレマオン地区における抗争事件の発生

4月28日夜、アレマオン地区において、警察の取り締まりに対する住民の抗議行動が発生し、住民はバス9台を放火、市立病院の窓を破壊するなどした。

(3) ロシーニャ地区における抗争事件の発生

5月1日夜、ロシーニャ地区において警察とスラム街住人との間で銃撃戦となり、容疑者1人が死亡、ほか1人が負傷した。同地区はレブロン地区の西側に接しており、本年1月にも軍警察と麻薬組織との間で銃撃戦が発生し、UPP総司令官と同地区を管轄するUPPの司令官が負傷している。

(4) W杯反対デモの発生(大規模なもののみ抜粋)

ア 5月15日、夕方頃からリオ市旧市街地で3つの抗議デモ(W杯開催反対、教職員賃上げ、バス運転手賃上げ)が開催された。出発地点はそれぞれ異なったが、最終的に合流した計千数百名がプレジデチ・ヴァスガス大通りを約3時間にわたって塞ぎ、「W杯に投じる費用を教育や交通機関のサービス向上に使い」等と訴えた。これにより、旧市街から南部へ向かう車の交通が混乱した。

デモ隊は午後8時頃には解散した。なお、デモはおおよそ平和裏に行われ、けが人等はなかった。(一部過激グループがデモ終了後、旧市街地に戻り、商店等への攻撃を行ったが、軍警察がスプレー等を使用して撃退した、との情報もあり)

イ ワールドカップ開会式が行われた6月12日午後、リオ市内旧市街地において、ワールドカップ開催に反対する抗議デモが実施され、その後、ファンフェスタ会場であるコパカバーナ地区に場所を移して抗議デモが継続され、軍警察によれば、同抗議デモに約500名が参加し、危険物所持により2名の逮捕者が出た。

※ 逮捕された被疑者は爆薬を所持との一部報道もあったが、警察の鑑識の結果、押収されたものは火薬の一種で、質・量ともに生命に危害を加えるような重大なものではなかったとのこと。

ウ ワールドカップ決勝戦が行われた7月13日午後、リオ市チジュカ地区サ

エンズ・ペナ広場において、W杯反対デモ隊約300名が組織され、午後3時頃からマラカナンスタジアムへの移動を始めたが、厳戒態勢の機動隊が催涙ガス弾等で応戦し、マラカナンスタジアムへの進行を食い止めた。軍警察は、抗議参加者の中から計6人を逮捕した。また、衝突により、軍警察2人、抗議参加者3人がけがをして病院で治療を受けたほか、プレス関係者11人が負傷したことも確認している。

(5) 文民警察によるストライキ

5月21日(水)午前0時より約48時間のストライキが実施された。この間、リオ州内の文民警察は30%の公務を確保した上での運営となった。

リオ市内の観光客の被害届けの受理を一元管理する、文民警察観光部隊(レブロン地区)によれば、同部隊の窓口は、より重要度の高い犯罪を優先に被害届けの受理に当たり、その結果大きな混乱はなかったとのこと。

3. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害は確認されていない。

2014年1月中にリオ州内で短時間誘拐14件(うちリオ市7件)、脅迫2705件(うちリオ市1564件)が発生しており、いずれも高い水準で推移している。

5. 日本企業及び在留邦人の安全に関わる諸問題

4月、コパカバーナ、イパネマ地区付近のファベラ(パバオ・パバオジーニョ)において、UPPと住民と麻薬組織との間で銃撃戦が発生、流れ弾による死者が出たほか、その後、取締りに反発する住民とUPPとの衝突に発展、同ファベラに通じるイパネマ側とコパカバーナ側の道路が5時間以上封鎖された。付近には、館員を含む在留邦人が多く居住するため、管轄警察署に対して警戒強化を申し入れ、警察官の街頭配置増加等の対応を受けた。

以上